

マーティン・ルーサー・アグワイ 国際リーダーシップおよび平和維持 センターの支援



ファクトシート

日本補正予算：2021年3月～2022年3月

予算：26万米ドル

主なパートナー：ドイツ・テクニカル・アドバイザリー・グループ（GTAG）、平和活動訓練機関（POTI）、英国軍アドバイザリー・トレーニング・チーム（BMATT）、国連人口基金（UNFPA）、国連開発計画（UNDP）

目的

このプロジェクトでは、マーティン・ルーサー・アグワイ国際リーダーシップおよび平和維持センター（MLAILPKC）が、ギニア湾の不安定さの根本要因に関する調査、およびその適切な対応に対する推奨案の作成を行うための能力開発を行います。具体的には、脅威となるものを抑制するための適切な計画と戦略の策定、MLAILPKCが海賊に対処し、任務を遂行する能力の開発、海賊対策のカリキュラム策定、そして反海賊プログラムに関するコースの運営を実施します。

プロジェクトの成果

成果1：MLAILPKCがギニア湾の海賊による影響を減少させる能力を獲得すること

SDGsへの貢献

このプロジェクトは、SDGsの目標16に貢献します。



From
the People of Japan

開発課題

世界の多くの国、とりわけアフリカにおける武力紛争は複雑さと発生数の両方の面で増加し続けています。

この暴力は、その大部分が良い統治の欠如、政争、不平等さ、より良い生活を求める市民の活動、そして生活に必要不可欠なサービスへのアクセスの欠如により引き起こされ、政治的な不安定さ、生命や財産の無慈悲な破壊、市民の大規模な強制移動、および主要な開発インフラの破壊を引き起こしています。

市民は不満のはけ口を暴力的過激主義、急進化、そして武力を伴う大規模抗議活動に求めがちです。違法行為には誘拐、家畜泥棒、武装強盗、海賊行為などが含まれます。

ギニア湾の海賊行為と海上犯罪は、とりわけナイジェリア海域において政府や民間投資に対し損害を与えると同時に経済活動を妨げてきました。ギニア湾の海賊行為および犯罪行為の割合は数年にわたって増加を続けており、海上犯罪のほとんどはナイジェリア海域で発生しています。